

準決勝・決勝 戦評

〈準決勝〉上江別 Jr.FC VS SSS 札幌サッカースクール

5 - 0 (1 - 0, 4 - 0)

大会最終日の準決勝、上江別 Jr. FC 対 SSS 札幌サッカースクールの札幌地区代表同士の対戦となった。

上江別は前半 1 分、10 番が左サイドを突破し、シュートを放つもゴールキックとなる。

一方の SSS は、GK からのゴールキックをビルドアップで組み立て、7 番、10 番、11 番を中心に攻撃を試みる。前半 6 分、11 番が相手ペナルティーエリアの左側手前で GK と 1 対 1 となり、シュートを放つがカバーリングに入った DF に当たり、こぼれたところを 14 番が押し込み先制する。さらに前半 10 分、SSS は 10 番が抜け出しシュートを放つが GK が弾き、こぼれたボールを 9 番が再度シュートするが、これも GK がファインセーブ。上江別 GK の積極的なプレーにより再三のピンチをしのいだ。

その後、両チーム中盤での攻防が続き、上江別は 10 番を中心に攻撃に転じたいが SSS がそれを許さない状況が続き前半が終了する。

ハーフタイム、上江別の指導者は、丁寧にプレーすることを選手たちに伝え、戦う姿勢を鼓舞する。SSS は、緊張があるかもしれないが普段と変わらないプレーをすること、ピッチの状況に合わせてプレーを選択



することを確認し、選手たちをピッチに送り出した。

後半開始早々、上江別は、右サイドから左サイドへ大きく展開し、後半から前線にポジションを変更した 8 番が突破しゴール前に迫るが、ゴールは奪えない。さらに、守備に戻りボールを奪った 8 番が右サイドの 20 番へパスを送り、そのまま持ち上がった 20 番がシュートを放つも GK が弾くと、逆に SSS は、こぼれ球を前線の 10 番へ繋ぎ、GK と 1 対 1 となった 10 番がキーパーをかわして追加点を奪う。

さらに SSS は 10 番が左サイド前線でボールを奪い、中央の 11 番にパスを出すと、11 番が打ったミドルシュートがゴールに突き刺さり 3 点目。終盤にも SSS が 2 点の追加点を奪い 5 点差となるが、何とか一矢報いたい上江別は、最後までゴールをあきらめず、3 番が左サイドからミドルシュートを放つがこれが枠を外れ試合終了となった。

SSS は、ターンやボールタッチなど、選手の能力が高い印象を受けた。結果的には 5 対 0 というスコアであったが、前半は、中盤での攻防が拮抗しており、3 番と 10 番を起点に攻撃を組み立てようとした上江別に対し、それを許さない SSS の守備力が勝敗の分かれ目となったように感じた。



(オホーツク地区サッカー協会技術委員 松村 圭悟)

〈準決勝〉 根室北斗 FC VS DOHTO Jr-U12 A
0－8 (0－3、0－5)

【前半】 ボランチの選手が攻守においてチームを支え、サイドハーフの突破力と粘り強くタイトに守備が持ち味で準決勝を勝ち上がった根室北斗FCと、高い位置からのプレッシャーからボールを奪い、ワンタッチプレーの早いパスワークでここまで勝ち上がったDOHTO Jr-U12 Aの対戦となった。

根室北斗FC、DOHTO Jr-U12 Aとも3－3－1のシステムであった。

試合開始2分、最初にチャンスを迎えたのはDOHTOだった。右サイドの17番がサイドを突破し得たコーナーキックから、26番がシュートしたがゴールにはならなかった。

4分、高い位置からディフェンスを続けるDOHTOが根室北斗のビルドアップのボールを高い位置で奪い、ディフェンスをかわし17番がシュート、根室北斗のGKがはじくも、DOHTO 20番が詰めてDOHTOが先取点を決めた。クーリングブレイク後、13分、根室北斗FCの9番が自陣で相手からボールを奪い、そのまま持ち上がりシュートするもゴールの上に外れる。19分、DOHTOの20番のくさびのプレーから4番へバックパス、4番から17番へのスルーパスし、17番がドリブルで侵入し、そのままシュート、GKにはじかれるもすぐにボールに反応し、すぐさまシュートし、2点目を追加した。AT1分に、ゴール前で根室北斗FCがファールによりフリーキックを与え、キッカーはDOHTO 20番。やや遠目ではあったが、GKが若干前に出ているところを少し浮かせたシュートを放ち、見事3点目のゴールをあげた。



【ハーフタイム ミーティング内容】

根室北斗FC：縦に急がず、味方・相手・スペースを観てボールを動かすことやゴールを守る・ボールを奪うチャレンジ&カバーの指示がコーチよりあった。DOHTO：現在3－0であることから、このあと相手は攻めてくる、奪われたあとの切り替えを最速最短ですること、オフザボールのときも相手に隙を与えないように最後まで楽をしないよう最後まで頑張るよう指示があった。



【後半】 後半もDOHTOが前線からプレッシャーをかけ続ける展開で試合が始まった。後半2分に根室北斗FC11番が2枚目の警告で退場。苦しい時間が続いた。後半6分、DOHTOは、相手のフリーキックのボールをはじき返し、ダイレクトでトップの選手へパス、20番がドリブルでペナルティーエリアに侵入、キーパーと1対1になったところで、逆サイドから上がった17番がきっちり決めて、4点目。やや疲れの見える根室北斗に対して、手を緩めず追加点をDOHTOが重ねた。最後まであきらめない根室北斗FCは、9番のスルーパスから10番のシュート。GKにキャッチされる。試合終了間際、根室北斗FC10番が高い位置でボールを奪い、そのままシュートしたがGKのナイスセーブで得点できず。試合終了のホイッスルが鳴り、決勝戦にコマを進めたのは、DOHTOとなった。両チームとも最後まで諦めずにゴールを目指すプレーは観ている人の気持ちを揺さぶるゲームとなった。

(オホーツク地区サッカー協会技術委員 寺田幸太郎)

<決勝> SSS 札幌サッカースクール VS DOHTO Jr U-12A
2-0 (0-0、2-0)

6年ぶり7度目の優勝を目指すSSSと初優勝に挑むDOHTOの対戦は、共に全道大会の常連であり、全国大会を経験している両チームということもあり、開始前から熱戦が予想された。特に、今大会無失点及び大量得点で勝ち上がってきたSSSの強固なサッカーと、対戦してきた強豪チームの攻撃の芽を摘んできたDOHTOのプレッシングサッカーとの勝負が、どのような展開となるか、新型コロナウイルス感染症対策で観客数が制限された観客が見守る中、決勝戦のホイッスルが吹かれた。



試合序盤は、両チームの一進一退の展開となり、前半4分、DOHTO39番のシュートがゴール右側を外れ、両チーム通じてのファーストシュートとなった。DOHTOは、1トップの20番にボールを集め、17番、4番、22番と枚数を掛けて攻撃を仕掛けた。8分、17番が左サイドからドリブルで切り込みシュートするがボールはゴールの外へ、11分、20番からのスルーパスを受けた17番がGKと1対1になるチャンスも惜しくも決めきることができなかった。

得意のプレッシングサッカーが機能し、SSS陣内でプレーすることが多い前半となった。

一方、SSSも1トップの11番を起点に、10番、7番が関わり素早いボール回しで様子を伺ったり、俊足の右サイドハーフ14番の前方スペースを使ったりするなど、攻撃のバリエーションが多彩であったが、相手GKの好セーブに阻まれるなど、スコアレスドローのまま前半を終えた。

ハーフタイムには、DOHTOベンチでは、もっと観るものを増やせるよう（半身でボールを受け）体の向きを意識し、アタッキングサードで仕掛けようと攻撃面での指示があり、SSSベンチでは、相手の激しいプレッシングをリスペクトしつつも、どんな攻撃が有効なのかを選手と確認した。

後半に入り、ベンチで確認したことを実行し、1分、DOHTOがCKからチャンスを作るもゴールにつながらず、この均衡した0対0の状況を破ったのはSSS。後半3分、右サイドハーフ14番のピンポイントクロスに10番がヘディングで合わせ先制ゴール。

18分、14番のシュートのこぼれたところを、この日、2点目となる10番のシュートがネットを揺らした。



大会を終えてみると、10番の10得点での得点王と5試合無失点での素晴らしい内容で、6年ぶり7回目の優勝に花を添えた。（オホーツク地区サッカー協会
技術委員 安田秀憲）